

⑧ ワイヤー張り

樹高の高い場合など、ハツ掛では効果が期待できないときに、ロープ（鉄線）数本で支えるもの。

⑨ 地下支柱

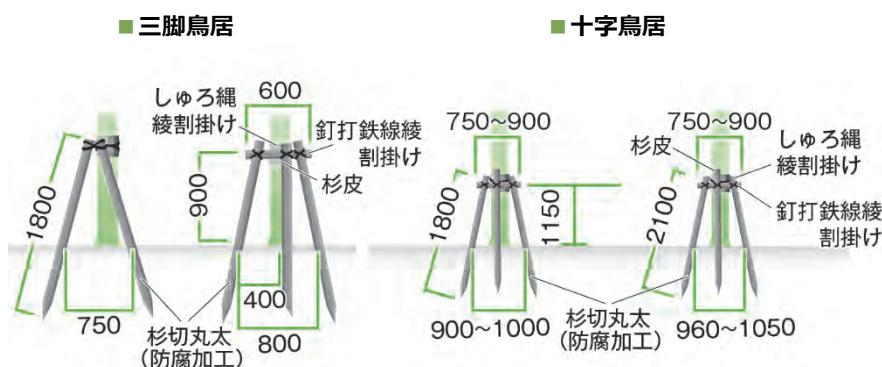
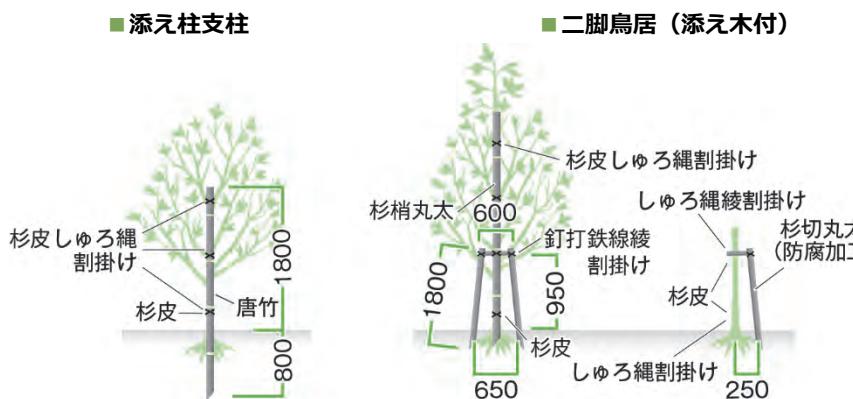
支柱を見せたくない場合、また支柱が立てられない場合に根鉢と幹の根元部分を地下で支えるもの。

⑩ 方杖

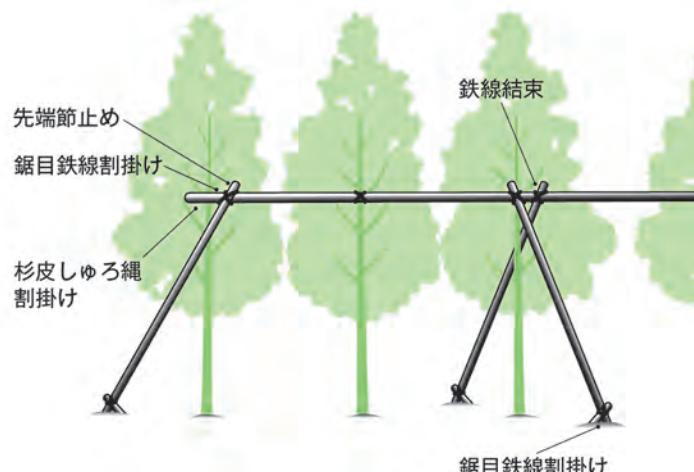
傾斜した幹や横に伸びた大枝を支えるもの。

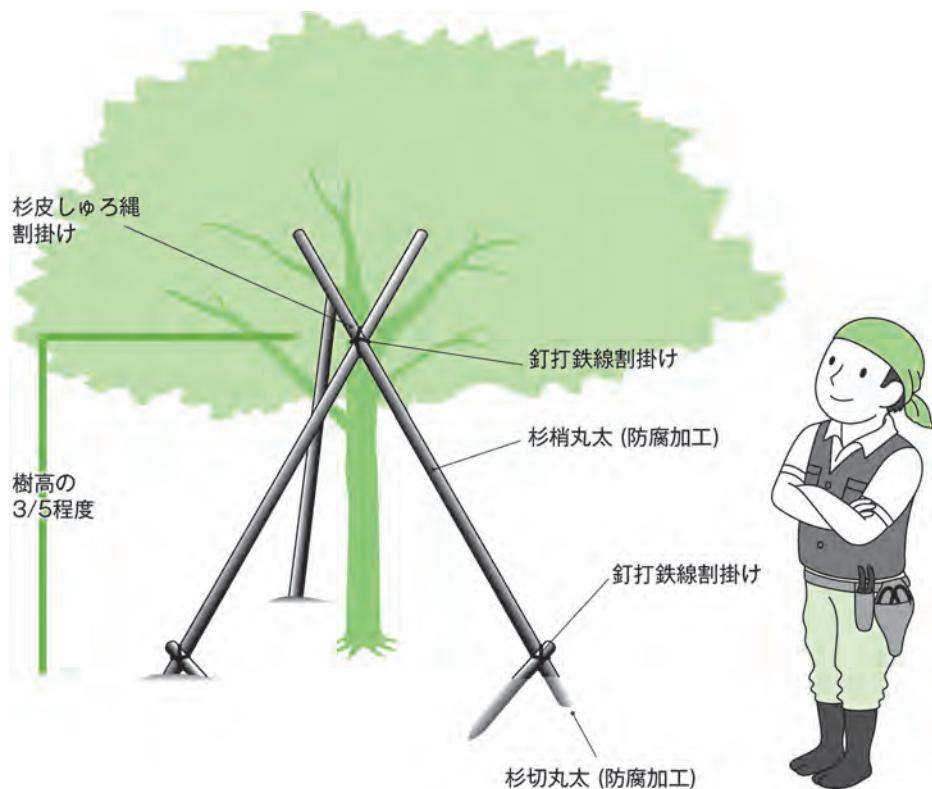
支柱形式	幹 周 (cm)									
	9	15	20	30	40	50	60	75	90	120
	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
	14	19	29	39	49	59	74	89	119	149
二脚鳥居（添え木付）	○	○	○							
二脚鳥居（添え木なし）			○							
三脚鳥居				○	○	○				
十字鳥居				○	○	○	○			
二脚鳥居組合せ					○	○	○	○		
ハツ掛（竹三本）	○	○								
ハツ掛（丸太三本）			○	○	○	○	○	○		
ハツ掛（丸太四本）									○	○

(2) 支柱の構造



■竹布掛

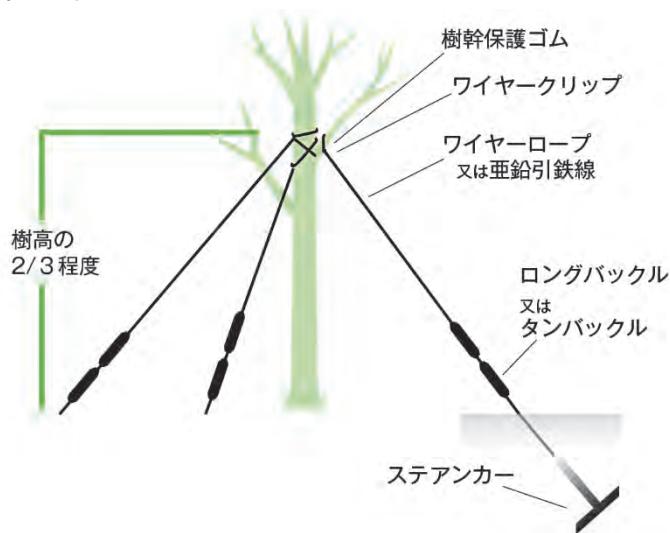


■ハツ掛け（竹三本）**■ハツ掛け（丸太三本）**

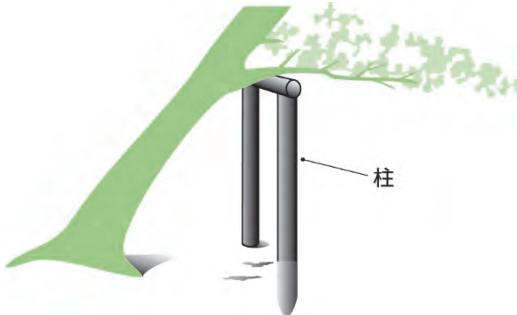
■八ツ掛（丸太四本）



■ワイヤー支柱



■方杖



(3) 木支柱における留意事項

- ①支柱に用いる丸太は割れや腐植等のない防腐処理済のものを使用する。
- ②支柱に用いる丸太は末口（丸太の細い方）を上にして施工する。
- ③丸太と樹木を取り付ける幹部には杉皮を巻き、しゅろ縛をする。
- ④唐竹を用いる場合は、先端を節止めとし、結束部は鋸目を入れ、鉄線で結束する。
- ⑤ハツ掛、竹布掛の場合は控えとなる丸太が幹または丸太と交差する部位の2箇所以上で結束する。
- ⑥ワイヤー支柱の場合、幹の結束部には幹当てを取り付け保護する。ワイヤーロープは緩みのないように張る。

4 芝生の造成

芝生をつくるためには、使用目的や利用頻度、土壤・気象条件、管理手法などを考慮して、芝草の種類を決める必要があります。

芝生造成の手順としては、芝の種類決定 → 整地・元肥施肥 → 芝付け（張芝、植芝、播種）→ 養生と進行します。

(1) 芝の種類決定

地域の気候、芝生の利用形態、維持管理の必要性、工事時期などを総合的に検討し芝の種類を決定します（芝の種類は第2章「造園材料」1-5「芝生」を参照）。

(2) 整地・元肥施肥

地表30cm程度の深さに開墾し、雑草、石などは取り除きます。表面排水がとれるように中央を周囲より高く仕上げて、整地、転圧します。必要に応じて整地時に元肥施肥をし、pHが5.5以下の強酸性土壤の場合には、土壤改良を行う必要があります。

(3) 芝付け（張芝、植芝、播種）

適期は、日本芝、バミューダグラスは3月中旬～10月が生育期のため、酷暑時を除く3月～6月および9月になります。厳寒期は、霜柱で持ち上げられ根が傷む原因となるので向いていません。